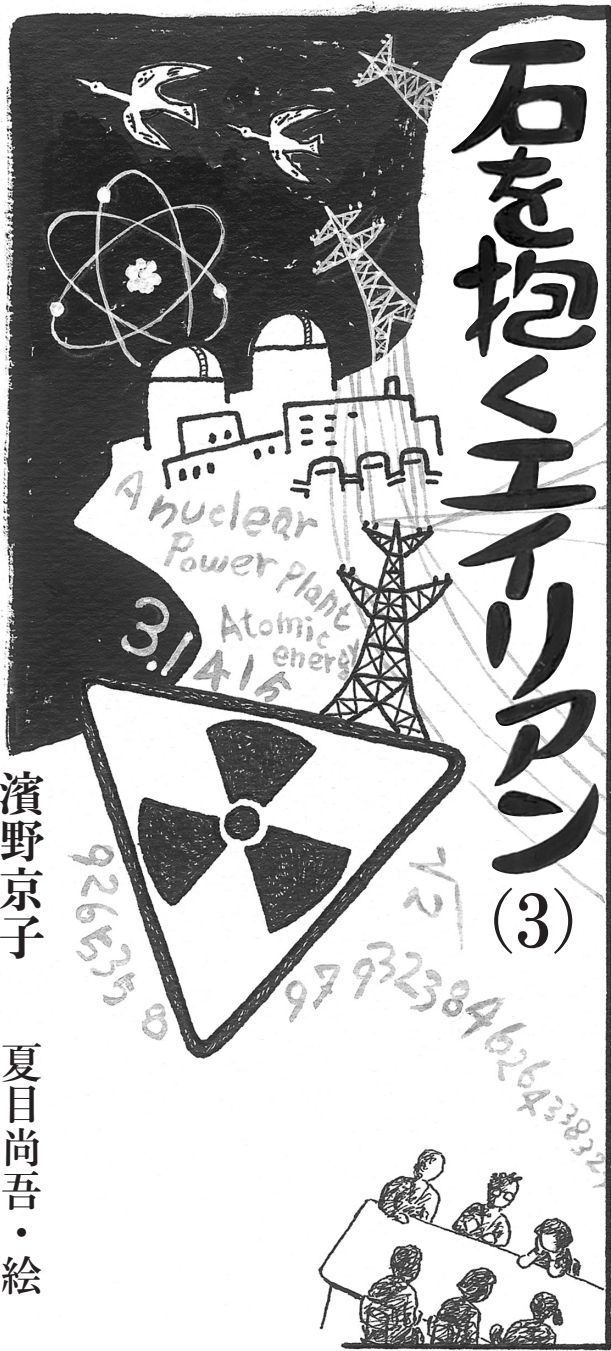


石を抱くエイリアン (3)



濱野京子

夏目尚吾・絵

〈前号のあらすじ〉

高浜偉生の告白を「希望を切り捨てた罰」かとまで思うあたし。夏休みに入りほっとしていたが、偉生から「はやぶさ」展に誘われ、班メンバー全員で受験生らしからぬ一日を共にする。八月の末、今度は偉生と二人で最古の地層を見に出かけた。それでも偉生の気持ちがいびとこないあたしだった。

まだしつこく暑さが残っているが、夏休みは終わった。二学期のクラス内は、何となく、あたしと偉生が公認のカップル視されている感あり。迷惑千万。幸いなことに席替えがあり、偉生だけでなく、玲美とも沙耶とも洋一とも離れた。サッカー小僧の直也だけがまたご近所で斜め後ろ。そしてすぐ後ろが、新体操の星、志賀夏希だった。妙に緊